

# 北海道浮魚ニュース

平成 28 (2016) 年度 17 号

2016 年 8 月 29 日

道総研水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

## ◎スルメイカ漁場一斉調査結果 (道南太平洋海域)

8 月下旬のスルメイカ分布密度は木直沖及び浦河沖で過去 5 年平均を上回った。魚体は昨年及び過去 5 年平均に比べ小型の個体が多い。

8 月 24 日から 26 日にかけて、浦河沖から下北半島東沖にかけての道南太平洋、及び函館沖で函館水試調査船金星丸 (151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備) により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

### 1. 水温分布 (図 1、2)

漁獲調査点 4 地点のうち海洋観測調査を実施した 3 地点の表面水温は 22.7 ~ 24.8 °C (昨年全 4 地点 21.0 ~ 23.6 °C) にあり、3 地点全てで昨年と同じ地点の水温を上回りました。水深 50m の水温は 11.8 ~ 19.5 °C (昨年全 4 地点 7.2 ~ 20.2 °C) の範囲にありました。水深 50m 層の水温は、渡島太平洋から胆振にかけてのほとんどの海域で水温 12 ~ 14 °C の範囲にあり、日高沿岸と下北半島北部に水温 18 °C を上回る海域がみられました。調査海域全体の傾向として、昨年に比べ海域内の水温の差が小さくなっていました。

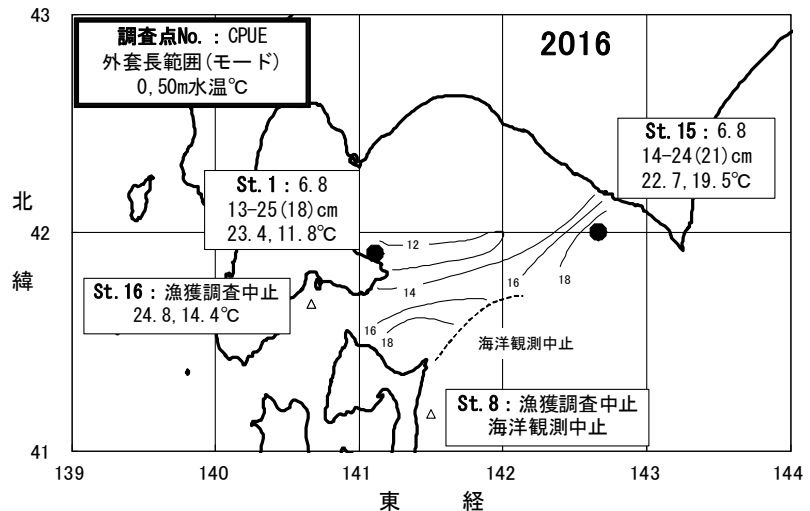


図 1 2016 年の漁獲調査結果と水温 (8 月 24 ~ 26 日)。●は漁獲調査点を示し大きさは CPUE に比例。△は漁獲調査中止。等温線は 50m 水深の水温分布

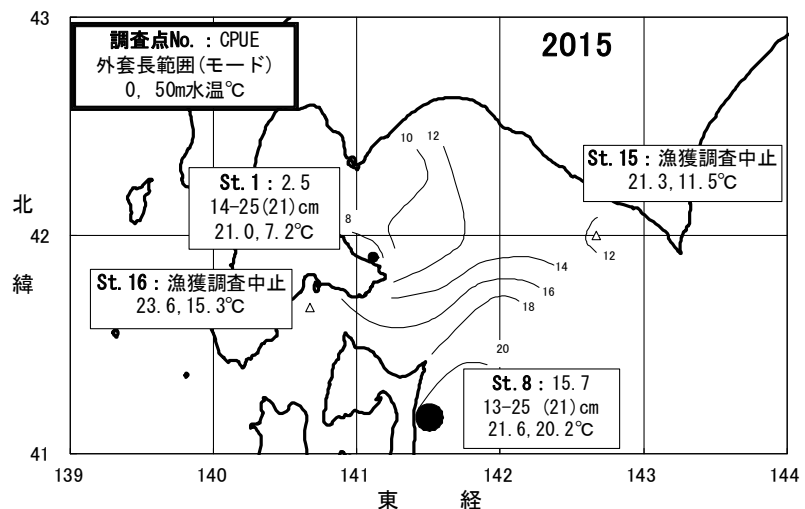


図 2 2015 年の漁獲調査結果と水温 (8 月 19 ~ 21 日)。●は漁獲調査点を示し大きさは CPUE に比例。△は漁獲調査中止。等温線は 50m 水深の水温分布

表1 スルメイカ漁場一斉調査（道南太平洋8月）のCPUEと外套長の経年変化。2011～2013年のSt.1, 8, 15は釧路水試調査船北辰丸により実施。

	2011 (H23) 8/17-8/26	2012 (H24) 8/21-8/24	2013 (H25) 8/21-8/24	2014 (H26) 8/18-8/22	2015 (H27) 8/19-8/21	2016 (H28) 8/24-8/26
St. 1(木直沖)CPUE	5.2	3.0	2.7	2.5	2.5	6.8
St. 8(下北半島東沖)CPUE	1.7	0.8	3.1	7.2	15.7	-
St. 15(浦河沖)CPUE	1.0	8.0	5.0	2.9	-	6.8
St. 16(函館沖)CPUE	2.1	7.4	1.5	-	-	-
平均CPUE (尾/(台・時))	2.5	4.8	3.1	4.2	9.1	6.8
外套長の範囲(cm)	10-26	12-25	12-26	13-27	13-25	13-25
外套長モードの範囲(cm)	19-22	20-22	21-22	21	21	18, 21

## 2. 分布密度

漁獲調査点4地点のうち調査を実施した2地点のCPUE（2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数）は、木直沖 St.1、浦河沖 St.15 とともに6.8で、いずれも過去5年のその調査点の平均（それぞれ3.2、4.2）を上回りました。平均CPUEは6.8で、過去5年の全4地点及び同じ調査点2地点の平均（それぞれ4.7、3.7）を共に上回りました（図1、表1）。

## 3. スルメイカの大きさ

スルメイカの外套長は、全調査点で13～25cm（昨年13～25cm）の範囲にありました（図1、3、表1）。調査海域全体の外套長のモード（最も多く漁獲されたイカの大きさ）は昨年及び過去5年平均と同じ21cmにありましたが、昨年及び過去5年平均に比べ20cm未満の小型の個体が多くなっていました（図3）。

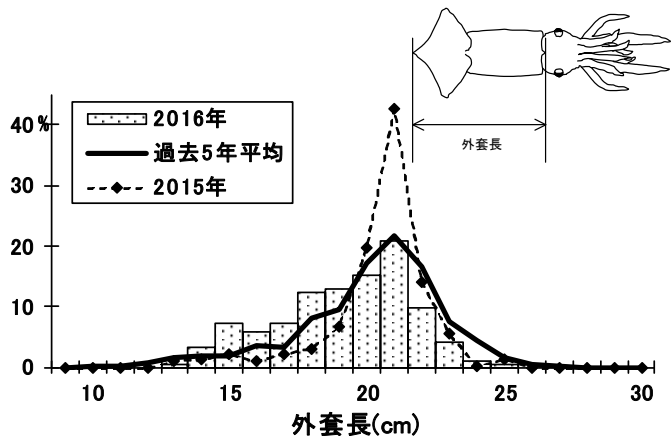


図3 海域全体のスルメイカ外套長組成

## 4. アカイカ（図4）

8月24日の浦河沖 St.15 でアカイカ23尾の漁獲（CPUE：1.8）がありました。外套長は22～29cmの範囲にあり、外套長の平均は26.5cm、モードは26cmでした。

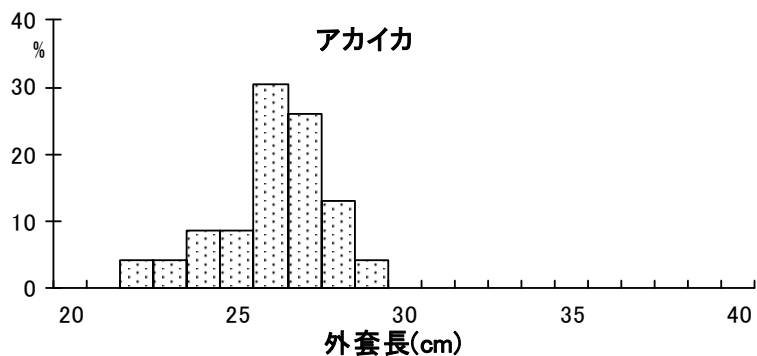


図4 浦河沖 St.15 のアカイカ外套長組成